

連載  
第4回

# 教師としての視野を広げる! 世界の日本人学校 マンスリーレポート

グローバルな現代社会。教室には、海外につながるのある子供たちも少なくありません!  
教師としての国際感覚を磨くため、海外の日本人学校のようすを毎月レポートします。

## 在外教育施設について

海外で日本の教育を受けることのできる教育施設で、「日本人学校」「補習授業校」等があります。現在、保護者の勤務の都合等で海外に滞在している日本の子どもたちは約8万3000人。このうち、約4万1000人が在外教育施設で学んでいます。

## クアラルンプール日本人学校 幼稚部

丹羽 桃香(にわ ももか)  
中西 琴海(なかにし ことみ)



平成28～30年クアラルンプール日本人学校にて学校採用教員として勤務。幼稚部クラス担任。

## 1 赴任したきっかけを教えてください

大学時代に留学をするなど元々海外に興味があり、海外勤務に憧れていました。大学の先輩が日本人学校に勤めていたことから、学校採用教員のことを知り、すぐに日本人学校について調べました。説明会に出向き、帰国された先生方の充実した学校生活を聞くうちに、海外で生活する子どもたちのために、少しでも役に立ちたいと思い、その年の募集に応募しました。複数の学校と面接をさせていただき、本園に採用が決まり赴任しました。(丹羽)

叔父が海外で生活していたこともあり、グローバルの波に乗って海外で働きたいと感じていました。また、高校時代にタイに1ヵ月ほどホームステイをして、海外で生活している日本人や子どもが多いことを知りました。私も、そうした子どもたちの手助けをする一翼を担いたい! と思い日本人学校を受験しました。(中西)



着任式

## 2 学校の概要を教えてください

小中の一環校で、約800人の園児児童生徒が在籍しています。幼稚部には現在約100名の園児が在籍。校内は広く、幼稚部も小中学部と同じプールやグラウンドを使います。プール活動では、マレーシア人コーチが英語で水泳指導を行います。最初は顔を水につけられなかった子どもたちも、年長組ではクロールに取り組んでいます。また、週1回、英会話の授業があります。少人数クラスで授業中は「No Japanese」。英語の歌やゲームなどをして楽しく活動しています!



JSKL50周年記念航空写真



## 海外で働く 学校採用教員Q&A

- Q7 4月赴任の学校採用教員の募集方法は?  
A7 翌年4月に赴任予定となる教員募集を前年の夏・秋の2回行ってあります。2018年度は7月、11月で実施の予定です。
- Q6 選考方法は?  
A6 まずは書類選考があり、通過するとWEBによる適性検査を受検し、最後に面接選考となります。選考はすべて募集を行う日本人学校、補習授業校の責任者が行います。

## 海外子女教育振興財団

海外子女教育振興財団 (Japan Overseas Educational Services=JOES) は、1971年に外務省及び文部省(現文部科学省)の共管の財団法人として設立され、2011年には内閣府の認可を受け公益財団法人となりました。設立以来、海外子女・帰国子女教育の振興を図るため幅広い事業を実施しており、学校採用教員の雇用支援もその一環として行っています。

日本人学校等学校採用教員雇用支援、「学校採用教員レポート」などについて、詳しくはこちらから<http://www.joes.or.jp>



## 3 この国の学校ならではの!という特徴は何ですか?

マレーシアはマレー系、中華系、インド系の人々が共存する多民族国家で、特有の行事が多くあります。幼稚部では国際理解教育の一環としてベスタスパンという行事に参加します。「ベスタ」はマレー語で「祭り」。子どもたちは、インドや中国、マレーシアの曲に合わせて踊って、マレーシアという国を身近に感じます。園庭には、ジャックフルーツやマンゴー、ランブータンなどたくさんの果物の木があります! 収穫すると現地スタッフの方がカットし、マレー語でフルーツの名前を教えてください。子どもたちも興味深々です。



行事「ベスタスパン」



マレー人スタッフによる、フルーツカットの様子

## 4 学校で勤務した感想を教えてください

「さまざまな子がいておもしろい!」と思いました。学校には、家庭では英語が第一言語である子や他国から編入してきた子など、多様な子がいます。年少の担任時に、ほとんどの子が集団生活は初めてで、一緒に日本文化を学び、英語をみんなで使うなど一人ひとりの文化を大事にして保育をしました。

現地の人たちと触れ合う機会も刺激的です。毎年学校で開催される日本語教室には、日本語に興味のある現地の人たちが大勢来校します。折り紙やコマ回し、太鼓などの日本文化を伝えるだけでなく、マレーシアの文化を教えてもらうこともたくさんあります。新しいことを知る機会が多く、自分の学びにもつながります!



クアラルンプール日本人学校正門

## 5 教え子が帰国したとき、日本の先生方に伝えたい伝達事項は何ですか?

「個性を大事にしてほしい」です。日本人学校に通う子は日本国籍ですが、保護者のどちらかが外国籍であったり、家庭で外国語を使用していたりと多様な子がいます。日本の学校のマナーを身に付けられるよう指導していますが、その子の文化も個性として大事にしています。ダメなことはダメと指導する反面、日本の文化にはない行動も個性として受け入れてあげてください。

日本人学校は入れ替わりが多く、毎月編入・退園があります。そのため、子どもたちは新しい環境に慣れるのが早いです。仲良くなるのも早く、初日から自分たちで声をかけあい遊ぶ姿も見られます。一方で、早く慣れたいと頑張りすぎてしまうことも。日本でも、自ら友だちをつくり、集団生活や環境にも溶け込めたいと思いますが、無理をしているかもしれません。環境に慣れても「がんばりすぎてない?」と声をかけて頂ければと思います。



子どもお別れ会にて、年長児を送り出します